

# 尻屋磯根資源調査

(要 約)

高橋 宏和・黄金崎栄一<sup>\*1</sup>・藤川 義一・鈴木 亮<sup>\*2</sup>

## 目 的

尻屋沿岸の磯根資源の状況を把握し、造成漁場を含む地先漁場の管理に資する。

## 材料と方法

平成 22 年 6 月 8 日に、太平洋に面する尻屋沿岸に 15 調査線を設け、各々の水深 2.5m、5m、10m、15m、20m にある計 65 調査点に潜水し、海藻を 50 cm または 1m 四方の枠で 1~2 枠分、底棲動物を 1m 四方 2 枠分採取し、種ごとに個体数と湿重量を求めた。底棲動物のうち、エゾアワビについては殻長を測定するとともに、貝殻頂部分の着色から人工種苗を判定した。採取されたキタムラサキウニのうち、漁獲サイズにある計 160 個については、生殖腺重量を測定し、生殖腺指数を求めた。

## 結果と考察

### 1. 2 年目マコンブ

2 年目マコンブの平均生育密度は、前年の調査では 11 地点で 2.4 本/m<sup>2</sup>であったが、本調査では全調査点 53 地点において着生が確認できなかった。2 年目マコンブの着生が確認されなかった要因は、前年の 1 年目マコンブの生息密度が 1984 年の調査開始以降最も低い 1.3 本/m<sup>2</sup>であった事によるものと考えられ、この 2 年目マコンブが少なかったことが、平成 22 年のコンブ漁の不漁に繋がったものと推察された。

### 2. 1 年目マコンブ

1 年目マコンブの平均生息密度は 42.0 本/m<sup>2</sup>と前年に比べ増加した。水深別の生息密度は水深 2.5m で平均 106.3 本/m<sup>2</sup>、水深 5.0m で平均 70.9 本/m<sup>2</sup>と多かった。1 年目マコンブの生息密度は平年並みであったため、平成 23 年のコンブ漁は平年並みの漁獲が期待される。

### 3. エゾアワビ

エゾアワビは、調査地点全体の 22% に相当する 12 地点から 19 個体が採取され、調査海域の南側での分布密度が高かった。調査地点全体の生息密度は前年とほぼ同程度の平均 0.32 個/m<sup>2</sup>で、水深別では水深 2.5~10m で平均 0.45 個/m<sup>2</sup>と高く、水深 15m 以深では平均 0.1 個/m<sup>2</sup>以下に留まった。殻長 9 cm 以上の漁獲サイズの個体は、全体の 17.5% で、前年の 30% に比べ減少した。一方、殻長 9 cm 未満の個体が全体の 80% を占め、今後、漁獲加入していくことが期待される。

### 4. キタムラサキウニ

キタムラサキウニは、調査地点全体の 73.6% に相当する 39 地点で採取され、調査地点全体では生息密度が平均 3.0 個/m<sup>2</sup>、現存量が平均 418g/m<sup>2</sup>であった。過去 10 年間の平均密度 (2.7 個/m<sup>2</sup>、330g/m<sup>2</sup>) と比較して、生息密度、現存量ともに高かった。

### 5. コンブ目海藻とコンブ目以外の海藻

コンブ目海藻は、ワカメ、スジメ、ガゴメ、チガイソが採取され、現存量はそれぞれ平均 366.4 g/m<sup>2</sup>、368.2 g/m<sup>2</sup>、21.1 g/m<sup>2</sup>、490.6 g/m<sup>2</sup>でチガイソが最も多かった。コンブ目以外の海藻は、ホンダワラ類ではアカモク、ウガノモク、フシスジモクが 3 地点で平均 75.9~632.4 g/m<sup>2</sup>、そのほか、ケウルシグサ、ウルシグサ、マクサなどの 18 種の海藻が平均 2,364 g/m<sup>2</sup>採取された。

発表誌：平成 22 年度尻屋磯根資源調査結果報告書、青森県産業技術センター水産総合研究所、平成 22 年 8 月。

\*1 青森県下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所 \*2 (地独) 青森県産業技術センター食品総合研究所